

株式会社おにつか農園

所在地 袋 2208-280

設立 2011年3月

従業員数 2人

事業内容

○農産物の生産・販売

○農産物の加工製造・販売



代表取締役
鬼塚 浩三さん

当園は、私の父が昭和38年に会社員から農家に転身し、袋の地でみかん農園を開拓したことが始まりです。私は、熊本県立農大を卒業後この農園で経験を積み、将来を見据えて平成23年に法人化しました。

「見て感動！食べて感動！」その感動を何度でも伝えるため、日本一の柑橘類を生産し、果樹を通して世の中を幸せに」を理念に掲げ、日々柑橘と向き合っています。繁忙期には、地元の人を雇用し地域に根差した農業を続けます。

露地とハウス合わせて約4haの農園では、甘夏や不知火、晩柑など年間約120tを生産しています。地形や気候、土壌など柑橘栽培に適した水俣の自然の恵みを最大限に生かした果実づくりが私たちの強みです。

出荷が無い時期でも当園の果実の美味しさを楽しんでいただけるよう、加工品の製造・販売にも力を入れていきます。着色料や香料、保存料を使用せず、絶妙な果汁率で仕上げた「飲むゼリー」は「くまもと食品科学研究会大賞新商品・新技術の部」において最優秀賞を受賞したこともある自信作です。現在は、加工品の製造・販売は市内福祉事業所のまどか工房に委託し、水俣を拠点とした農福連携を展開しております。

自然相手の仕事は難しさもありますが、水俣の地で育んだ感動の果実を安定してお客さまに届けられるよう、これからも栽培技術の向上に努め、楽しみながら農業を続けてまいります。



▲「飲むゼリー」と「フルーツバター」



収穫を待つ元気な子（デコボン）達

水俣は気候や土壌が果樹栽培に適しており、デコボンや甘夏などおいしい果実が育てられます。一年かけた丁寧な生産の末に実る果物を味わえる喜びは格別です。しかし、近年は自然災害が多発し、それを乗り越えることが農業の重要な課題です。このような状況下でも成功を収めるためには、しっかりとした農業設計を立て、計画に基づき一つ一つの作業を着実に行うことが必要だと思います。